

浸水被害から暮らしを守っています

「首都圏外郭放水路」を見学したのも初めてです。地下河川の存在は知ってはいませんが、その働きまでは知りませんでした。支川が増水すると、洪水の一部が「立坑」という施設から地下河川に流れ込み、トンネルから第1立坑を通して「調圧水槽」に貯め込まれて、巨大な排水ポンプで江戸川へ放水されます。



「守る」厳しさ、王座防衛と同じ

「守る」厳しさ、王座防衛と同じ。安心を支える厳しさを

首都圏外郭放水路の役割

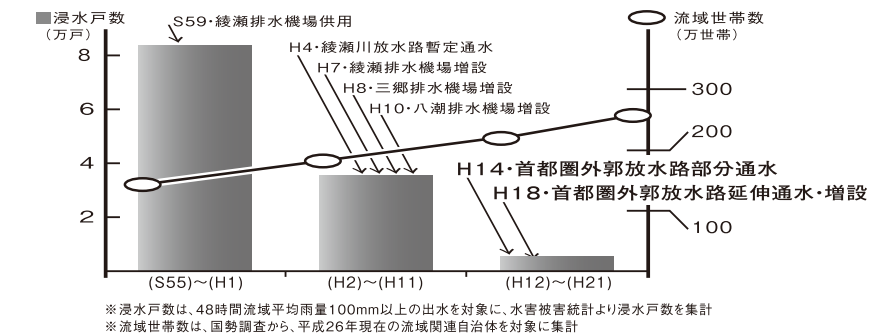


「地下神殿」とも呼ばれる調圧水槽は長さ177m、幅78m、高さ18m。サッカーグラウンド2面ほどの広さに59本の大柱が並んでいます。世界王者の内山さんを圧倒するほどの迫力です

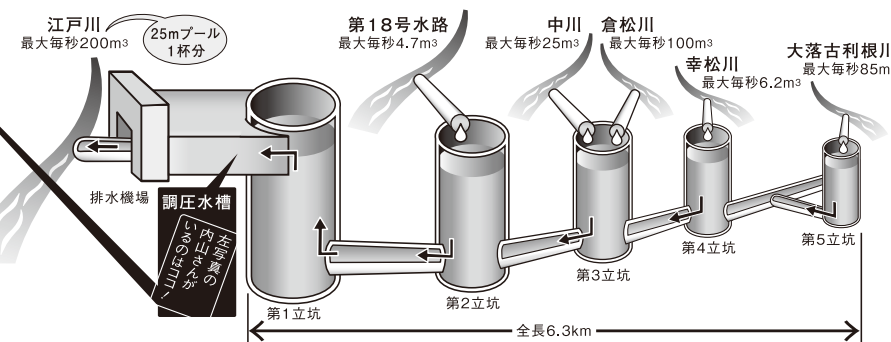
首都圏外郭放水路など整備で浸水被害1/10以下に

中川・綾瀬川流域は利根川、荒川、江戸川に囲まれたお皿のような低地で、かつては浸水被害が頻発していました。首都圏外郭放水路は、中川、倉松川、大落古利根川など支川の洪水の一部を「立坑」から取り込み、総延長6.3kmのトンネルで江戸川へ流す人工河川です。これに加え、排水機場の整備や総合的な治水対策を進めたことで、1980年代は10年間で8万戸を超えていた浸水被害が1/10以下に軽減されています。

治水施設の整備と浸水被害の推移



首都圏外郭放水路の全体構成図



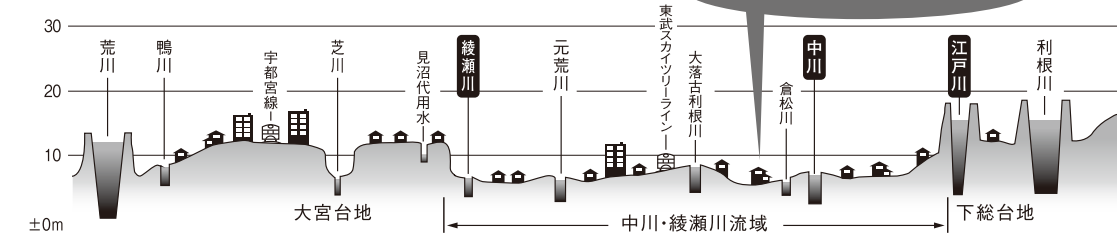
変化する雨の状況をスマホやPCで確認できます

国土交通省は、局所的な雨量をほぼリアルタイムに観測できるXバンドMPレーダネットワーク「XRAIN(エクスレイン)」の整備を進めています。観測データはインターネットでも提供しており、日本気象協会などによってスマホ向けアプリも開発されています。内山さんも利用していて、「雲行きが怪しいときには雨の動きをスマホで確認して、トレーニングを切り上げることもあります」と話しています。



思いました。大型化する台風や局地的大雨が今年も話題になっています。見学は、首都圏外郭放水路という巨大な施設がこの地域にある意味を考へる機会になりました。春日部近郊は急激に都市化が進んだ地域で、人口や資産が集中しています。万が一大きな被害が出るでしょう。例えば、首都圏外郭放水路が担う暮らしを「守る」厳しさは、ボクシングの王座を守り続ける厳しさに似ています。首都圏外郭放水路のほかにも、流域では国・自治体・住民が一体となってさまざまな治水対策を進めていて、浸水被害が軽減されたと聞きました。一方で、自分の身は自分で守ることの大切さも言われています。みなさんも防災を自分の問題として考えてみてはいかがでしょうか。

江戸川・中川・綾瀬川 周辺の地形



WBA世界スーパーフェザー級チャンピオン 内山高志さん

1979年生まれ、春日部市出身。花咲徳栄高校時代にボクシングを始め、2005年にプロデビュー。2010年に無敗のまま世界王座を獲得し、今年5月には10度目の防衛に成功しました。内山さんにとって、江戸川は大切なふるさと。江戸川河川事務所とのコラボが実現して、2回にわたって流域の今を語っていただきます。



洪水対策の仕組みなどを学ぶ「龍Q館」

内山さんが見学した地底探検ミュージアム「龍Q館」では、首都圏外郭放水路の仕組みや役割などを学び、調圧水槽(地下神殿)を見学できます。見学会は要予約。お出かけ前に必ずお問い合わせを。

【見学のお問い合わせ】
TEL.048-747-0281(春日部市上金崎720)
※9:00~16:30 土・日・祝・年末年始を除く
詳しくはウェブで。
<http://www.ktr.mlit.go.jp/edogawa/gaikaku/>

